

山形の未来をひらく教育推進事業(英語教育推進)

-国の目指す方向性-

<2020年まで>

- 【小】(高学年) コミュニケーション能力の素地を養う。
活動型・週1コマ程度、学級担任を中心に指導。
- 【中】 コミュニケーション能力の基礎を養う。4技能の総合的育成。
- 【高】 コミュニケーション能力を養う。授業は英語で行うことを基本。

(中学校卒業段階で英検3級程度、高校卒業段階で英検準2級~2級程度)

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(平成25年12月13日 文部科学省)

<2020年以降>

- (中学年) 活動型・週1~2コマ程度、学級担任を中心に指導。
- (高学年) 教科型・週3コマ程度、英語指導力を備えた学級担任、専科教員の活用
- 授業を英語で行うことを基本とし、身近な事柄を重視した言語活動
- 授業を英語で行うとともに、発表、討論、交渉など高度化した言語活動
- 小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上
- (中学校卒業段階で英検3級~準2級程度、高校卒業段階で英検2級~準1級程度)

平成26年12月
教育庁

Hi!
How are you?
Hello



<本県が目指す英語教育の目標>

自分を表現! 郷土を発信! 「英語を用いたコミュニケーション能力」の育成

<目指す児童・生徒・教師像>

【児童・生徒】(2020年まで)

- (小) 身近な話題等について、相手と英語で意欲的に会話することができる。
- (中) 自分の地域等について、他者にまとまりのある英語で伝えることができる。
- (高) 他者に対するおもてなしを、英語で行うことができる。

(2030年まで)

- 自分の興味あることについて、他者と英語で意欲的に会話することができる。
- 自分の地域等について、他者に英語で的確に発信することができる。
- 討論やディベートを、他者と英語で論理的に行うことができる。

【教員】(2020年まで)

- (小) 教室英語を多用して、音声重視した協同的な楽しい授業を行うことができる。
- (中高) 卒業・学年終了までに身に付けさせたい力を明確に持ち、4技能を統合した授業を計画的に行うことができる。

(2030年まで)

- 4技能を統合して身近なことについて表現するための教材開発や授業を行うことができる。
- 英語を使って、地域や世界で活躍できる人材育成のため、探究型・表現型の授業を系統的に行うことができる。

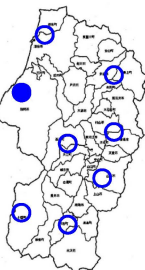
【重点施策1:小学校外国語活動 活性化】

「外国語活動フォローアップ事業」の展開

- <ポイント> 英語を指導できる日本人の外部人材を講師招聘
- <メリット> 教員の指導力向上と児童の英語力向上
- <具体的な取組>

県内7地区
1中学校区内
4小学校に配置

郷土資料の活用
(観光案内等)



小

重点 児童が体験的に楽しく学ぶことができる
コミュニケーション活動の工夫

- 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動の充実
- 「Hi, friends!」を活用した年間指導計画の工夫、外部人材の活用

中

重点 生徒が英語を十分に使うことができる言語活動の充実

- 小学校外国語活動を踏まえた授業の導入・展開の工夫
- 「読む」「書く」活動を含めた体験的なコミュニケーション活動の充実
- CAN-DOリストを活用した生徒の英語力定着、郷土資料の収集・活用

高

重点 生徒が自信を持って英語で交流することができる指導の充実

- コミュニケーション活動を重視した授業モデルの開発・普及、ALT等の積極的活用
- CAN-DOリストを活用した生徒の英語力分析と授業改善
- ディベート県大会の開催

素地づくり

基礎づくり

実践力の育成

【重点施策2:小中高連携】

地域を限定した小中高連携プログラム事業(鶴岡モデル)

- <ポイント> 授業を中核とした小中高大の連携強化
- <メリット> 鶴岡市内モデル校で、次期学習指導要領改訂を見越した先駆的な取組

<具体的な取組> 「英語教育強化地域拠点事業」(一部国費)の活用

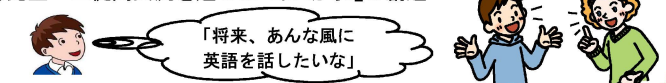
①10年間の「系統性」ある指導計画と評価

[小(3~6年) + 中(1~3年)] + 高(1~3年) 計10年

②郷土を発信する「郷土学習」(観光案内等)

- 【小学校】 ○ 教科・総合的な学習を関連づけた英語観光紹介
- 【中学校】 ○ 教科書題材を発展させた英語地域紹介
- 【高等学校】 ○ 郷土資料を踏まえた英語観光ガイド作成

③児童・生徒間交流を通した「あこがれ」の創造



【基本施策1】 <英語教員の指導力向上>

<ポイント> 研修による英語教員の指導力強化

<具体的な取組>

- 英語指導力向上セミナー: 4年間で約850名受講
- ・ 英語教育推進リーダーによる演習等(小350中280特40高180)
- ・ 英検受検料助成による準1級以上取得の奨励

【基本施策2】 <英語の「モデル単元授業」の開発・発信>

<ポイント> 小中高連携を意識したモデル単元・授業の構成・開発・発信

<具体的な取組> 郷土資料、系統的な指導体制を工夫したモデル単元の開発
公開研究授業を通したモデル単元の発信・共有

- Point1: 「CAN-DOリスト」に沿った「付けたい力」の明確化
- Point2: 上記リストを活用した評価の工夫改善
- Point3: 指導内容・方法の充実と実践の構築

【基本施策3】 <高校における山形「スピーク・アウト」推進事業等の展開>

<ポイント> 生徒の英語コミュニケーション能力の育成

<具体的な取組>

- ①山形「スピーク・アウト」の推進
- ②チャレンジ英検、英語集中合宿
- ③ディベートの推進(教員含む)
- ④高大連携海外研修支援

